

Kakehashi いさはや

2024

Vol.13

令和6年11月発行

住み慣れた地域で

いつまでも自分らしく

～諫早市のACPの取組み～

この冊子、ご存じですか？

11月30日は
人生会議の日です

令和4年に完成した諫早市のACPの冊子です。
今号は、この冊子を高齢者を支える専門職の皆さんにも
“知ってほしい” “使ってほしい”という思いを
地域包括ケア推進課の方にお話しいただきました。

なぜ、ACP？

日本は超高齢社会となり、高齢者の多くは何らかの疾病や障害を抱えながら生活をしています。そのような状況で、これからの治療・ケアをどうするのか、どこで療養するのかなどを選択する必要があります。個人の価値感や社会的背景も多様化している中、本人にとって最善の医療・ケアが選択され実現できることを目指しています。

諫早市においても、高齢化率が30%を超え、令和元年に在宅医療・介護連携推進会議で、在宅医療・介護連携推進事業の課題を整理した結果、「ACP」について取り組むことになりました。

令和2年に、医師・看護師・ケアマネジャーをメンバーとしたワーキンググループを設置し、課題や今後の取組みについて協議を重ねました。その中で、ACP認知度を調査したところ、市民の約7割の方は「知らない」、また専門職においても、約6割の方が「聞いたことはあるがよく知らない・知らない」という結果でした。

ACPは大事なことですが、まだまだ知られていないということが分かり、市民だけでなく、高齢者を支える専門職の方への普及啓発方法を検討しました。

その結果、誰にでも簡単でわかりやすく、記入しやすい、ACPの普及啓発の冊子を作成することになり、“知ってもらおう”“使ってもらおう”ための冊子として、令和4年に完成しました。

現在、この冊子は市民の方に手に取っていただけるよう、地域包括ケア推進課、市役所1階ロビー、各支所、地域包括支援センターに配置し、市民講演会や各種研修会、かけはしいさはや主催の「お気軽座談会」等でも配布しています。医療機関や介護事業所にも置いていただいているところもあります。

昨年10月には、かけはしいさはや主催「在宅医療・介護関係者研修会」において、専門職の方に諫早市のACPの取組みについて説明し、この冊子を紹介しています。

いつか来る
自分の最期を
考えてみませんか？

ACP(アドバンス・ケア・プランニング)
「人生会議」
~この冊子は医療・ケアについて事前に
「話し合う」ためのものです~



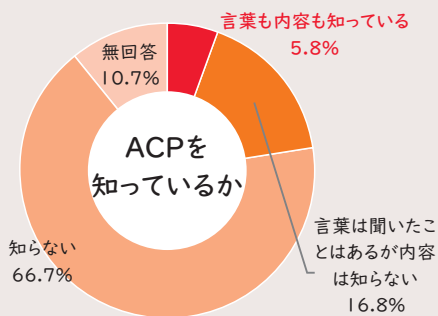
名前

諫早市

ACP(アドバンス・ケア・プランニング)

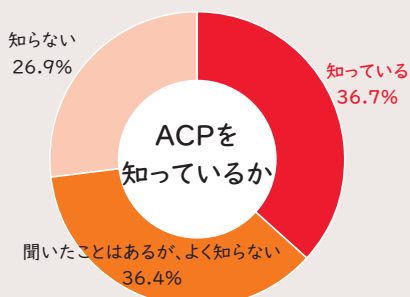
いつか来る自分の最期に備えて、自分の大切にしていることや望み、どのような医療やケアを望んでいるかについて、自分自身で考え、信頼する人たちと繰り返し話し合うプロセス

市民のACP認知度



令和4年度 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

専門職のACP認知度



令和4年度 「ACP」認知度アンケート調査

ACPの実践？

専門職にむけた「ACP」認知度アンケート調査では、2割弱ではありますが、ACPを実践されていました。

まだACPがよくわからない、最終段階の医療というイメージがあり「なんとなく聞きにくい」「話しにくい」と躊躇することがあるのかもしれませんが、ACPは医療・介護現場における意思決定の困難さを解決できる最良の手段であるといわれています。

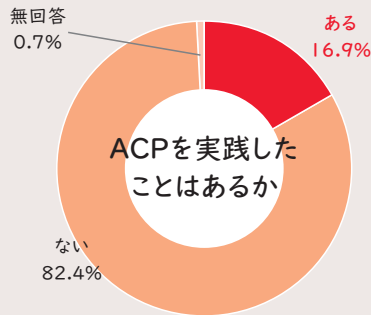
専門職の皆さんは、患者・利用者との何気ない会話の中で、その方の人生の物語、価値観、大切にしていること、ゆずれないことなど聞かれることもあるのではないのでしょうか。

ACPは、病院・施設・在宅を問わず、様々な場所で、何を大切に生きていきたいか、希望する医療やケアなどについて、話し合う過程を繰り返し行うことが重要です。

患者・利用者がその人らしく生ききるために、その方に関わる多くの専門職が、思いを共有し、協働することが大切となります。

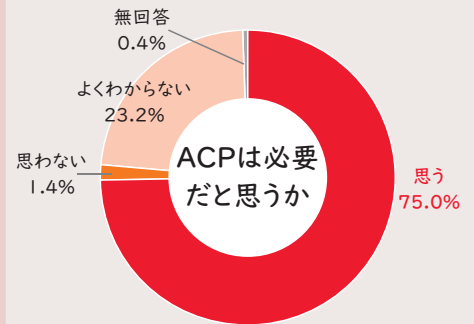
このACPの冊子を、多職種連携のためのツールとしても活用していただければと思います。

専門職のACP認知度



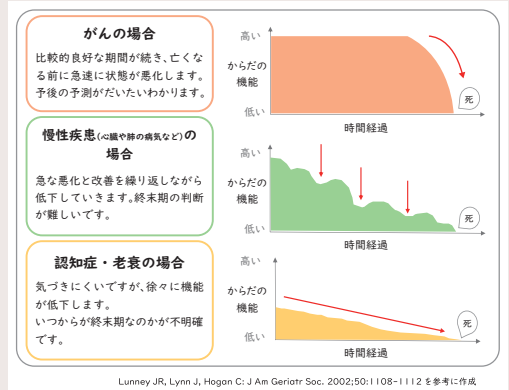
令和4年度「ACP」認知度アンケート調査

専門職のACP認知度

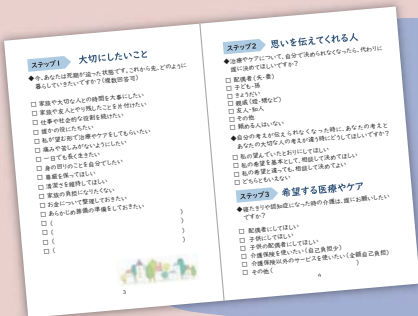


令和4年度「ACP」認知度アンケート調査

人生の最期に至る軌跡



疾患によって状態や経過は多様であり、ACPの開始や継続のタイミングは様々です。病状により、気持ちも変化していくため、繰り返し行うことが大切です。



まずは手に取って、見てください。
そして、これからのことを確認する、話すきっかけとして使ってみてください。
また、この冊子に関するご意見もお待ちしています。
これからも専門職の皆様の声をいただきながら、さらに良いものへと改訂していきたいと思っています。

(諫早市 地域包括ケア推進課)

泉央保健所

「人生の最終段階における医療・ケア体制推進事業」

泉央保健所では、高齢者施設における実態調査等から、医療と介護の両方のニーズへ対応できる地域の受け皿づくりや、高齢者施設と在宅医療機関や訪問看護ステーションとの連携強化などを提言されています。

また、ACPの実態調査結果からは、利用者の意向や価値観に関わる話し合いが不十分であり、医療・介護関係者への普及啓発が必要であるとして、「人生の最終段階における医療・ケア体制推進事業」に取り組まれています。

今後、高齢者施設における看取り件数の増加が予測されることから、施設職員を対象として、人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに焦点をあてた研修会を、昨年度から開催されています。

令和7年度には「施設におけるACP推進リーダー養成研修(仮称)」も行われる予定です。

施設職員の皆様、ぜひご参加ください。

第1回在宅医療と介護の市民講演会を開催しました

在宅医療ってなあに？ ～あなたを支える医療と介護～

高来ふれあい会館にて、市民講演会を開催しました。約80人の方にお越しいただき、大盛況となりました。

東部地域包括支援センターの橋本さんより、地域包括支援センターが高齢者の方々の様々な相談を受けてくれる窓口であることを、藤山先生からは患者さんもお家族も後悔のないように、在宅医療は安心して穏やかに過ごすための選択肢の一つであるとお話いただきました。

助村先生からは訪問歯科診療の紹介だけでなく、噛むことの大切さや唾液の働きなど、いつまでもおいしく食べられるようにとお話いただき、齋藤先生はどのような方が訪問対象となるのか、医師や他職種との連携などについてお話いただきました。

参加された方からは「日頃の生活の中で知らないことがいっぱいあり、本日の講演を聞き勉強になりました。」「自分や家族が、介護が必要になった時など、より納得できる暮らしができるように、家族で話し合っておく必要があると思った。」などのご意見をいただきました。

令和6年7月13日(土) 14時～15時半
高来ふれあい会館



「地域包括支援センターの役割」 諫早市東部地域包括支援センター 橋本 一幸様
「人生の最期は自分らしく ～在宅医療について～」 藤山循環器内科医院 院長 藤山 友樹様
「口腔ケアの実践と訪問診療」 助村歯科医院 院長 助村 大作様
「薬剤師と在宅医療」 野のはな薬局 齋藤 祐一郎様

第1回在宅医療・介護関係者研修会を開催しました

「血圧のはなし」

血圧の基礎知識・高血圧と生活習慣病

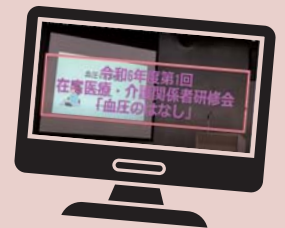
あいつ訪問看護ステーション諫早所長の増丸昌馬様をお迎えし、研修会を開催しました。

今回は血圧をテーマに、在宅で療養されている方へのケアのポイントなどをお話いただきました。

参加された方からは「基本的なことでもありながら、在宅に必要な、大事な内容についてわかりやすくご講義いただきました」「改めて基本を知ることでは実はわかっている『つもり』でいたことに気付きました。先生の説明もわかりやすく、聞きやすかったです。」などの感想をいただきました。

また、当日会場にお越しいただけなかった方に対し、Youtube配信も行いました。自宅や業務の合間など、隙間時間を使って視聴していただけたようです。今後も研修会の在り方について検討を重ねてまいります。

令和6年9月12日(木) 14時～15時
諫早市健康福祉センター



INFORMATION

第2回在宅医療と介護の市民講演会

「在宅医療ってなあに？～あなたを支える医療と介護～」

令和7年2月15日(土) 14時～15時半 小栗ふれあい会館

第3回在宅医療・介護関係者研修会

講師：諫早医師会

令和7年3月開催予定（詳細は後日ホームページ等でお知らせします。）



諫早市在宅医療・介護連携支援センター かけはし いさはや

〒854-0061 諫早市宇都町29-1 健康福祉センター内
TEL: 46-3166 FAX: 46-3167
E-mail: isahaya.zaitaku.renkei@iaa.itkeeper.ne.jp
URL: <https://kakehashi-isahaya.com/>

かけはしHP

